

院内における義歯管理方法の統一

加藤 裕子 大森 智 荒川 佳小里 坂 啓子

要旨：入院治療をきっかけに義歯の自己管理が困難になる例は多いが、当院では義歯管理方法が徹底されておらず、紛失や破損、未装着などの事故につながる可能性が高い。そこで看護師が義歯管理を行う場合の院内での義歯管理の方法の統一を行った。方法として義歯管理についての現状調査を実施したのち、具体的な方法として①義歯情報の共有のため記載内容の統一②食札への記入③管理方法のフロー図を作成し、周知徹底を行った。その結果、実施前より義歯管理についての意識の向上、食札やフロー図を活用した義歯管理が実施されるようになった。

【はじめに】

咀嚼機能の維持は認知機能の低下を防ぐだけでなく、栄養確保にも重要な役割を果たしており歯牙を損失した場合に義歯は非常に重要である。しかし、入院中の患者では義歯使用者であっても、疾患による症状や治療上の安静などで自己管理が困難となる例が多い。当院でも入院経過中の義歯管理を行うことが多くあるが管理の方法が統一されていなかったため、義歯紛失や破損、義歯未装着などのトラブルの危険があった。そこで、院内で義歯管理方法についての統一を行ったのでその現状と今後の課題を報告する。

【期 間】

平成26年8月～平成27年12月

【方 法】

1. 病棟スタッフ対象に自由記載の調査と義歯に関するヒヤリハットをもとに現状把握を行う
2. 現状把握をもとに具体策を立案し実行

【結 果】

方法1の現状把握では「義歯を入れておくべ

きか迷う」「義歯管理方法が分からない」「スタッフ間で義歯の有無について伝達されない」などの意見や「義歯が破損しているがいつからか分からない」「義歯装着を忘れ食事介助した。または途中で気付いた」という内容が上がった。

そこで、方法2の具体策として①義歯の状況について入院基礎情報への記載②食札への記入(図1)③管理方法の統一のためフロー図を作成し(図2)①～③を全病棟で実施した。定期的に意識調査および①について記入漏れの調査を実施し、その結果をフィードバックすることとした。

定期的な調査では、①についての義歯の入力ができている割合は5か月間で80%から90%に改善した。(図3)意識調査ではフロー図の存在について理解しているが約73%から91%に上昇した。(図4)食札に義歯の入力がある場合、義歯の装着を確認しているかは具体策実施直後より95%以上が実施できていた。(図5)

【考 察】

義歯はいわゆる身体機能を維持するための装具でもあり、義歯紛失は普段義歯を使用することで維持出来ていた咀嚼機能が損なわれることにつながる。また、本来必要とする義歯を使用しないことでおこる窒息は命の危険に直面し重大な事故につながる。普段は患者自身や家族により出来ていた管理が入院をきっかけにできな

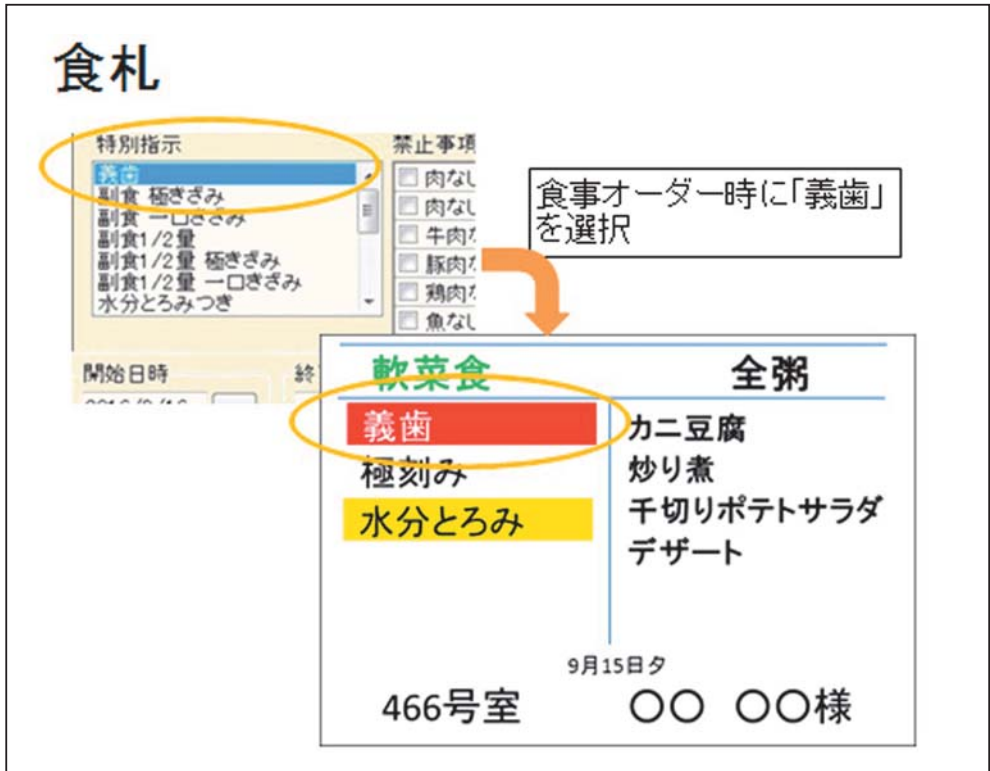


図 1

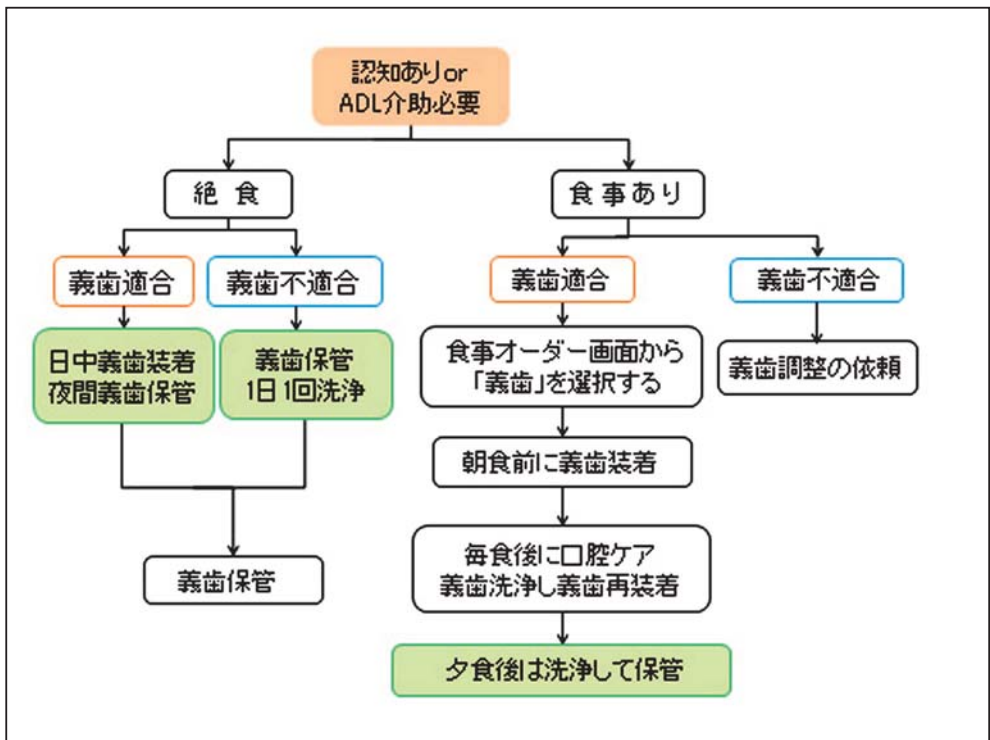


図 2

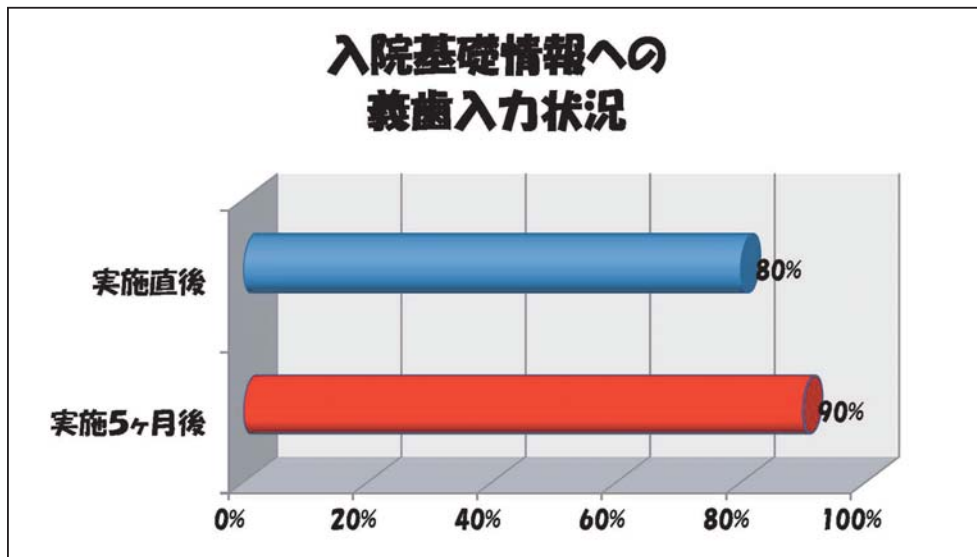


図 3

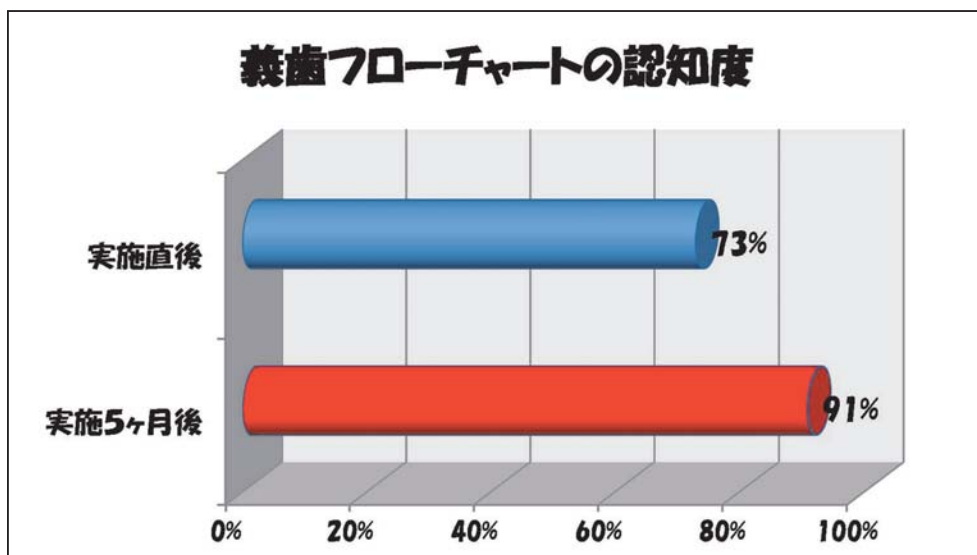


図 4

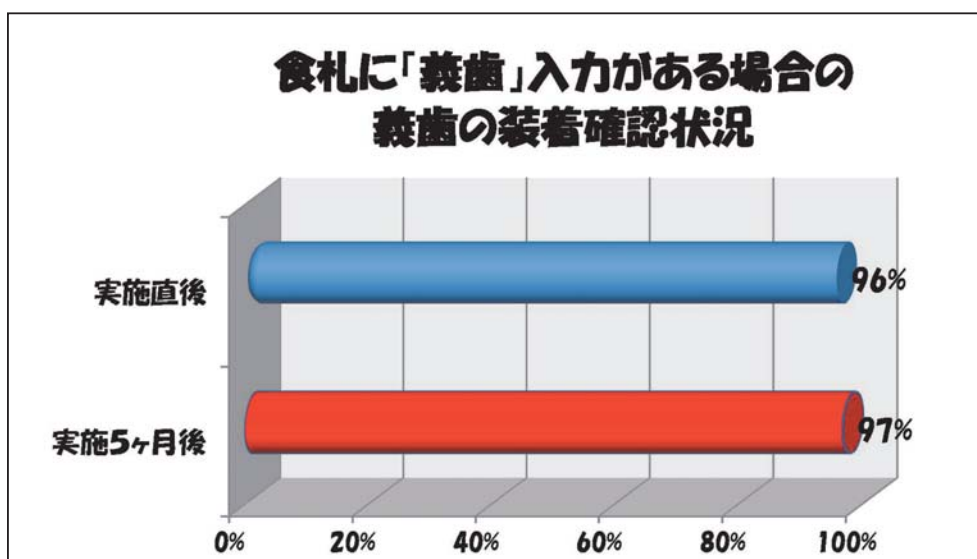


図 5

くなる場合、看護師は責任を持って代行する必要がある。

そこで今回、義歯管理方法の統一と浸透を行ってきた。具体策として情報の記載内容・記載場所を統一したことや、配膳の際に必ず確認する食札に着眼したことでより実行可能な対策になったと考える。また、定期的に調査を実施しフィードバックを行ったことでより意識を高めることができた。

今後も看護師の義歯管理に対する意識の向上と定着をめざし、看護手順の修正や、義歯の重要性についての研修会を開くなど継続した活動が必要と考える。

文 献

- 1) 日本老年歯科医学会，診療室における義歯洗浄と歯科衛生士による義歯管理指導指針2013年度版，
http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline_2013.pdf [accessed 2016年7月1日]
- 2) 森戸光彦：超高齢化社会における歯科医療の役割
日歯医学会誌 28：68-71，2009
- 3) 小山珠美：食べることの意義と全身活動との関係
月間ナーシング 32(13)：36-37，2012